

留学先：The University of Findlay

氏名： 加藤 裕樹

【はじめに】

2014年秋学期が終わり、私の留学も折り返し地点になってしまいました。1月に入り、雪がたくさん積もり、地域の小学校は休校になることも多々あります。今回は2014年秋学期の振り返りを中心に報告していきます。

【Final Week】

学期の最後の週ということで、大量の課題と莫大な量をカバーするテストに追われる12月前半でした。課題が終わらなくて、徹夜をしたこともありました。アメリカの大学は、日本と違って宿題の量が膨大です。そして、1つ1つの宿題、1つ1つのミニテスト、その授業に関わる全てのことが、成績につながる、シリアスなところです。その分、学生もみんなしっかりと勉強しています。この勉強に対する姿勢は、日本人の大学生として学ばなければならないと感じました。私は、クラスの友達にたくさん助けてもらい、この学期をのりきることができました。



【2014年秋学期を振り返って】

この半期を振り返って、私が一番感じていることは、自分から英語を使う機会を求めていかなければならないということです。「留学をしたら英語を使わなければいけないため、自然に英語力が伸びる」ということがよく言われますが、これは違います。実際は、英語をそんなに話さなくても、生きていけるのです。授業中のディスカッションも自分から積極的に話していかなければなりません。また、いろんなイベントやミーティングなどに参加してさらに英語を使う機会を求めていく必要があります。最低限の英語だけで生活はできますが、英語を伸ばすためには積極的に求めて努力することが必要です。アメリカには確かに日本より確実にたくさん英語を使うことのでき

る機会があります。それを自分から積極的に求めていくことによって、英語力を伸ばすことができると感じました。

そして、このフィンドレーの約5ヶ月間で、毎週小学校に訪問したり、ホームレスに食べ物をサーブする活動をしたり、アメリカ人の小学生に日本語を教えたりと、たくさん活動に従事しました。この5ヶ月間は本当に充実していたのですが、それと同時に、なぜ日本にいたときにこういった活動をしてこなかったのだろうということも思いました。小学校訪問もボランティアも自分から求めていけば、日本でもできたはずですが、大学で学ぶことももちろんたくさんありますが、大学の外で学ぶこともたくさんあります。とにかく、自分から機会を求めていくということが大切なのです。

【Christmas Break】

冬休みを利用して、ワシントンDC、ボストン、ニューヨークに旅行をしてきました。年越しをタイムズスクエアでするというとても貴重な経験をしました。聞くところによると、タイムズスクエアでの年越しは、人生で一度はしておきたい経験であり、もう二度としたくない経験らしいです。実際に経験して、その理由が身にしみて分かりました。12月31日の午後1時くらいにタイムズスクエアに着いたのですが、それから年を越すまでほとんど身動きが取れず、トイレにも行けませんでした。とても辛かったです。年を越したときの感動は言葉にできないほどでした。来年は自宅のこたつでみかんでも食べながら、ゆっくり年越ししたいと思います。

ではまた来月の報告書で。